

活性化モデル商店街の概要

商店街名：一宮中心市街地商店街連合※

【※一宮市本町通 3 丁目商店街振興組合・一宮市本町通 4 丁目商店街振興組合・一宮市銀座通商店街振興組合・一宮市本町通 1 丁目商店街振興組合・一宮市御朱印地商店街振興組合・一宮市伝馬通 3 丁目商店街振興組合・一宮市本町通 2 丁目商店街振興組合・一宮市駅西商店街振興組合】

●キャッチフレーズ

地域の伝統を継承し、温かい絆を育てる商店街

◎商店街の将来ビジョン

【現状】

近年では、市全体で人口構造が変化し、住民の急速な高齢化や中心市街地に隣接する地域であっても人口が減少していくことが推測される。また、地場産業の衰退により地域経済活動が縮小しつつある。中小企業では経営者の高齢化が進み、事業継続が困難となるケースが増加しつつある。

【課題】

- ・ 売上減少や商店主の高齢化、後継者不足が原因と推測される空き店舗・空き地となるケースが少なからず散見される。
- ・ 来街者の高齢化によるニーズの変化に対応する取組みが求められる。

【対策】

地域住民・家族同士の絆を深めるイベントの実施やコミュニティ交流の場を設置することによって、高齢者を始めとする地域住民がふれあう場として商店街をアピールする。地域コミュニティの発展を推進していくことで、商店街への興味・関心を高め、来街者の増加を図り、空き店舗へ出店者を誘致する。

◎具体的に取組む事業内容

○おいち祭り（28 年度～32 年度）

イベントを通じて、近隣住民、市民団体、NPO 法人等と連携を深める等

○親子参加型商店街探検隊（29 年度～32 年度）

子育て世代の親を対象とした商店街でのイベントを併催し、来街者の誘致を図る等

○来街者（近隣住民含）コミュニティスペース設置（30 年度～32 年度）

休憩できて、話し合うことが出来るスペースを整備し、来街数増加を目指す等

○巡回店舗誘致（31 年度～32 年度）

利用者のニーズに応えることができる不足業種のお店が定期的に空き店舗に入ることにより、来街者の顧客満足度を増加させる。